

# あなたとわたしの You&Me 新風景

「女だから」「男だから」という枠を外すと見えてくる女と男の新風景。このコーナーでは、自分らしい生き方にチャレンジしている市民の方々をご紹介します。



**消** 防士というと、つい男性の仕事

と思ってしまいがちですが、決してそんなことはありません。男女共同参画社会とは、仕事においても様々な分野で男女が共に活躍できる社会なのです。

「未知の世界だけにやりがいを感じ、この仕事にチャレンジしようと思えました」

こう語るのは、現在市の消防局で消防士として働く豊田美子さん。昨年の4月から指令室に配属され、男性職員同様、24時間体制で119番通報などの対応にあたっています。

豊田さんがこの仕事に就いたのはいまから20数年前。いまほど女性の仕事として確立していなかったときに、豊田さんの職場にも女性はずか5名しかいませんでした。

「当時は、女性は結婚したり子どもができたなら辞めるという風潮が強かったと思います。男性中心の職場でしたので、仕事が限定されるなど、女性であるがゆえに苦勞することもありました」

そんな状況の中、豊田さんが結婚、出産後も仕事を続けられたのは、あとに続く後輩の女性たちの存在が大きかったといいます。

「ここで私ががんばればみんなも続けていける。そんな気持ちの支えがあったからこそ、今日までがんばってこられたと思います」

こうした豊田さんの努力が実って

## 男女が共に力を発揮し まちの安全を守っていききたい

消防局警防部指令課 豊田美子さん

か、現在市の消防局で働く女性消防士の数は25人にまで増えました。また男女雇用機会均等法の改正により女性の職域も広がり、意欲や能力があれば、様々な仕事にチャレンジできるようになりました。

「これから先に向けて、私も含め、女性たちがもっと自分のスキルを高めていく努力も必要だと思います。」

消防士というのは、人の命にかかわるとも責任の重い仕事です。でもそれだけにとってもやりがいを感じます。女性と男性がそれぞれの力を発揮し、まちの安全を守っていく。近い将来、消防の分野でも、そんなパートナーシップが築けたらいいですね」



消防局警防部指令課  
指令課長  
大木 充生さん

### 上司からのメッセージ

99年に改正された男女雇用機会均等法の施行に伴い、女性の深夜業が認められたことで、24時間勤務を必要とする指令課でも女性が働けるようになりました。現在、浦和の指令センターでは、昨年4月より豊田さんを配属し、業務にあたってもらっています。

正直なところ、最新の機械を操作したり、夜勤のある業務内容からみて、はじめは不安面もありました。でも、実際は男性と全然変わらなく勤務しているというのが私の実感です。対応については口調がやわらかく、安心感がありますね。これからも活躍を期待しています。